

各位

全3ページ
登録速報(2022-175)
2022年 8月 3日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部 普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。
適用拡大登録年月日：2022年8月3日

記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第24155号

名称：ベッカク1キロ粒剤

2. 変更の内容

農薬登録申請書第6項中、以下を変更する。

- ・作物名「移植水稻」の適用雑草名「多年生広葉雑草、キシウスズメノヒエ」を「多年生雑草」に変更する。

【変更後】(変更する作物のみ抜粋)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 及び 多年生雑草	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機 で施用
	アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後～ノビエ3葉期 但し、移植後30日まで			湛水散布

ピリミルファンを含む 農薬の総使用回数	フェニキサリルを含む 農薬の総使用回数	フェンキトリオンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

- #### 3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容 農薬登録申請書第7項中、1) を変更、3) を追加し以降を繰り下げ、別紙【変更後】の とおりとする。

【変更後】

- 1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、キシウスズメノヒエは再生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。

【追加】

- 3) 雑草害をもたらす栽培目的以外のイネの防除に使用する場合は、発生前が有効なので散布適期を失ないように散布すること。また、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。

7. 農薬の使用上の注意事項

【変更後】

- 1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、オモダカは矢尻葉1葉期まで、クログワイは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、キシウスズメノヒエは再生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。
- 2) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 3) 雑草害をもたらす栽培目的以外のイネの防除に使用する場合は、発生前が有効なので散布適期を失しないように散布すること。また、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 4) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 5) 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 6) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ①異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
 - ②活着遅延を生じるような異常低温の時
 - ③砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
 - ④軟弱苗を移植した水田
 - ⑤極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
 - ⑥植穴の戻りの悪い水田
- 7) 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。
 - ①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない散布すること。
 - ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。
- 8) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 9) 散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- 10) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 11) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上